

農育=農業にはこんな力もあったんだ!

「野菜も子どもも、たくさんの目と手をかけないと立派に育たない」

子育て農業応援団は、地元農家や地域の関係者、県外の団体とのきめの細かい交流を通じて、あたたかい子育ての場をつくりだしている。それは、お母さんが一人で行なう子育てではなく、お父さんもおじいちゃんもおばあちゃんも、それに他の家の人たちや子どもたち、いろいろな人たちが一緒に作業をしながら、みんなでみんなの子どもをみる子育て。昔の田んぼや畑では当たり前に行なわれていた、そんな“農業の姿”の復活だ。

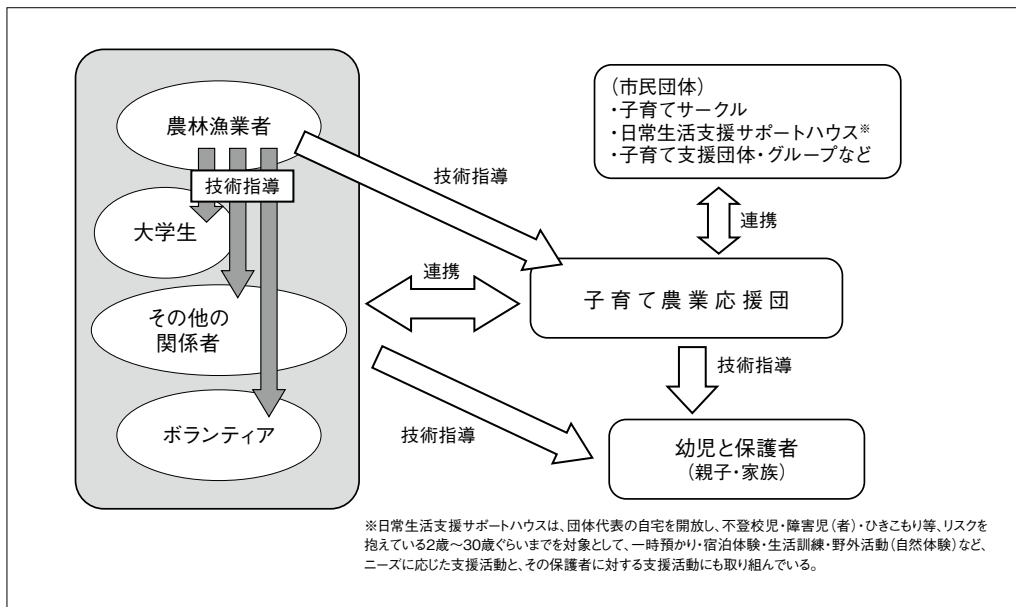
子育て農業応援団

取組主体

- 名称：子育て農業応援団
- 担当窓口
担当課(者)：団長 山本 実千代
住所：石川県金沢市本多町1-15-26
電話：076-224-7010 FAX：076-224-7010
E-mail：aiko124@io.ocn.ne.jp
- 団体等の属性：その他(任意団体)
- 構成員数：6人
- コーディネーター等：子育てひろば事務局及びネットワーク
- 活動内容を紹介するHPアドレス：
<http://kosodatenougyou.seesaa.net/>
- 連携団体及び協力団体
属性：農林漁業者、農林漁業に関する団体、NPO法人、その他(子育て支援団体など)



水やり



取組地域及び地域の特徴

取組地域：石川県金沢市荒山町

地域の特徴：

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置する。市内から周辺市町村へ広がる金沢平野は、水利がよく適湿で、単作の稲作中心の農業が継承されており、北陸地方の他地域と並んでコシヒカリの主要な産地の一つである。南東部は山地で、いくつかの山が並ぶなかに医王山がある。

「子育て農業応援団ファーム」は、金沢市の東部、医王山の麓、石川県と富山県の県境近くの、豊かな自然に囲まれた、金沢市荒山町にある。過疎化・高齢化に伴って、農地及び周辺環境の維持管理が大きな課題となっている。

取組内容

(1)目的(目標)

子育て支援に関するさまざまな情報提供や、食育と農育を連携させた取組みを実践的に行ないながら、子どもの豊かな成長を育み、育てていくことを目的に活動している。

(2)取組開始時期・経緯

日常生活支援サポートハウスが実施した農業体験を基に、子育て中の親子にも取り組める農業があるとして平成20年に発足。石川県金沢市山間地の遊休農地を利用して、教育ファームモデル事業として取り組んだ。平成21年度については、教育ファームモデル事業のなかで、石川県内の能登地域、加賀地域の子育て支援団体および関係者と連携し、ネットワーク化を進めることでステップアップを目指した。

平成22年度においては、それまでのモデル事業での取組みをいかし、引きつづき、子育て中の親子を中心に農業体験を実施している。

(3)対象作物

米、野菜

作物名・種類: 水稻（古代米、もち米）、野菜（キュウリ・ナス・トマト・カボチャ・サトイモ・トウガラシ、他、紫へたナス、打木赤皮甘栗カボチャなどの加賀野菜、新潟の関屋カボチャなど県外の伝統野菜）

選定理由:

- ・お米については「田んぼにお絵かき」を計画。教育ファーム推進事業をきっかけに交流がつづいている県外の団体から指導いただき、古代米を選んだ。
- ・野菜については、参加家族に県外者（転勤族）が多いことから、石川県の伝統野菜を知り、広めるために選んだ(松下種苗店が協力)。

(4)具体的な取組内容

- ・1回の参加者は約15名から30名。
- ・指導者については、5、6人(事務局及び生産者)が指導者として参加している。
- ・家庭でもできる栽培について指導するなど、家庭と畑の距離を近づける工夫や、イベント的なものではない「農育」を心がけている。
- ・種苗店からの支援や、教育ファーム推進事業をきっかけに交流がつづいている県外の団体からも指導協力を受けている。
- ・子育て広場などで募集のチラシなどを配付しているが、ほとんどが団員の「口コミ」による加入者であり、募集期間や加入期間に縛りをつくらず、随時募集を行なっている。農閑期の加入については、調理体験を計画するなど、工夫をこらしてしている。
- ・ファームの管理は基本的に団員が行なうが、連携団体や事務局も定期的に肥培管理を行なっている。
- ・団員及び関係者には、ホームページやメールにて定期的に連絡事項や情報提供を行なっている。
- ・ファーム近隣の地域の方々から、ファームのことであたたかい声をかけて頂いている。地主さんへは年数回

訪問し、活動状況を報告。地域の情報も頂きながら、地域との円滑な活動を心がけている。

(5) 年間スケジュール(平成22年度)

5月・6月	田んぼにお絵かき・サトイモ植え・大豆植え・畑のお世話
7月・8月	夏野菜の収穫・畑のお世話
9月・10月	野菜の収穫・秋野菜の苗植え・畑のお世話
11月	野菜の収穫
12月	収穫した野菜を使った調理実習・作品作成・収穫祭

(6) 参加者数・属性の実績及び推移

*団員(参加者)は、金沢市内在住の通勤族の県外家族が多い。

平成20年 約35名(うち、8家族25名)

平成21年 約80名(うち、15家族50名)

平成22年 約80名(うち、16家族60名)

(7) 経費

・取組みに係る平成22年度の経費(年間の概算)

7万2000円(1家族について、年会費3000円+種苗代500円)

*他各活動により実費徴収



ジャガイモ収穫

課題及び対処方法(ポイント・工夫)等

●課題: 集合時間について、当日の参加予定者が全員揃う時間がまちまち。

○対処法: 参加者は子育て中の親子が多いため、集合時間については決めているが、ゆるやかに対応している。

●課題: ほ場の確保について

○対処法: 日常生活支援サポートハウスの関係で、この地区での活動が以前からあり、入りやすかった。

耕作放棄地の持ち主の方に、使わせてもらえるようお願いした。「子どもの活動であれば協力は 厭わない、場所は幾らでも貸してやろう」と快く承諾してもらった。

集落の了解も必要となり、一軒一軒回り、了解を得た。

●課題: ほ場での運営の課題: 獣害(イノシシ)について

○対処法: この地域はイノシシが来るため、サツマイモについては2年目からは植えないようにしている。

肥料に気をつけた(苗を掘り起こし、肥料を食す場合がある)。被害を想定し、多めに、種まきや定植を行なっている。

●課題: 関係者(団体)との連携について

○対処法: 子育て関係のネットワークがきっかけとなっている。連携を進めるには、関係者が一堂に会することが必要だが、それぞれの都合もあるため、関係者と農業応援団団長が機会をみながら個別に会い情報交換を行ない、ホームページやメールなどで事務局や団員に連絡し、情報の提供・共有をしている。

●課題：乳幼児の病気対策

○対処法：乳幼児が参加しているため、感染性の病気には、気をつけて情報収集している。各日程についても調整する。



ピーマン収穫

これまでの成果

- ・就学前の子どもたちは、家庭でできなかったことが畑ではできたり、足腰がまだ不安定な幼児が畑を走り回ることによってバランス感覚が養え、でこぼこしているところでも転ばずに走ることができるようになるなど、身体的な成長に影響を与えた。五感への刺激。
- ・農作業という同じ目的のもとで作業することや、同年齢・異年齢の子どもと空間を共有することを通じて、少しずつ自立する心を養い、また、親同士が農作業や子どもの見守りについて協力し合うことで相互の信頼関係や子育ての意識の高まり、子育て力の向上が見られた。特に父親においては、子育てに関わる貴重な時間にもなっている。
- ・親子にとって、自分たちが住む地域以外の仲間や友だちができた。
- ・子育て中である当事者同士の情報交換や悩みなどの相談ができる。

今後の構想、課題

- ・「父親畑」の本格実施(お父さんたちだけのコーナーづくり)。
- ・保育所、幼稚園、学校等との共同利用について継続していく。
- ・子育て農業応援団の活動を通して農業コミュニティーを広げていく。

子育て農業応援団

みんなのコメント集

取組の
実践者

●応援団スタッフ

「“親を育てる”ことの大切さに改めて気づきました」

「子どもの成長が、実践者の楽しみとなり、やりがいにつながりました」

「実践者にとっても学びの場となりました」

「日常生活の子育てとは違う、子どもたちの行動や表情が見られます」

「参加者も指導者も、異なる分野・異なる地域からの参加。お互いの生活圏内における情報交換をはじめ、口コミによる人脈の広がりなどを期待しています」



大根収穫

参加者

「畑に行くと、自分の子もよその子も関係なく、誰かが必ず子どもたちを見てくれています。いけないこと、危ないことをしている子がいると、誰かが叱って、たしなめてくれます。親が感情的になって言うことを、子どもも意固地になって聞こうとしないことがあります。参加しているおじさん、お婆さん、お兄さん、お姉さん、ときにはお友だちに言われたりすると、案外素直に聞き入れてくれます。野菜も子どもも、たくさん目と手をかけないと大きく立派には育たないってことですね。こういうことに気づけたのも、「子育て農業応援団」というコミュニティのなかで過ごし、作業しているからこそだと思います」

「種まきから収穫まで体験させてもらい、自分がこれまでいかに言葉や写真などの情報だけでわかったつもりになっていたのかを痛感しました。野菜のこと、土のこと、季節と旬のこと、自然の時の流れ、天候のことなど、実際に畑で過ごしたことで、食卓に自分と畑のみんなで育てた野菜を出し、安心感やありがたさ、育てる大変さを共有しながら話したり、食べたりしてきました。ただ得るばかりの一方通行の情報だけだったら、こんなふうにはいかなかったと思います。息子にとっては、体験の記憶が種となり、成長してから何かが芽吹くのではないかと期待しています。農業応援団は、さまざまな世代の方たちと教え合い学び合える場でもあり、親子共々良い刺激を頂けたことに感謝しています」

「最初に来たときは土にさわるのがイヤだったけど今では大好きになりました。スーパーで買った野菜と自分たちで育てた畑の野菜の味に違いがあることがわかりました。畑のほうがおいしいです」

「まず、このような支援活動があることに驚きと感動でした！そして、この活動に子どもと一緒に参加できたことに感謝感激です」

「実際に素手で土に触れて植物や自分たちが口にするものに直に触れて感じることができ、子どもも私も大喜びでした。こんな体験ができるのも、子育て支援のスタッフのみなさんがいるおかげです。感謝しています」

「農業最高！ 自然最高！」

「先日、稲刈り体験、ありがとうございました。息子は自分なりによく働き、良く遊び、楽しかったようです。また、父との活動も新鮮だったみたいで、いい顔をしてました。父親はヘトヘトになっていましたが、良い運動&気分転換になったようでした」



苗植え